

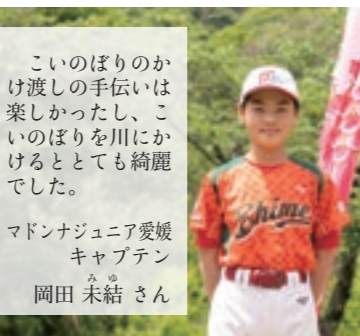


未来へ受け継ぐ

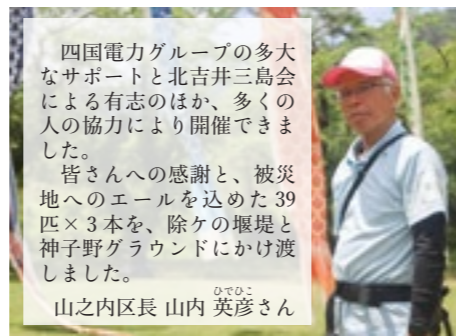
山之内の「除ケの堰堤」で3年ぶりのこいのぼりの川渡し。再開の背景には、熱い思いがありました。

国指定登録有形文化財の「除ケの堰堤」。ここでのこいのぼりの川渡しは、平成7年にスタート。しかし、新型コロナウイルス感染症等の影響で川渡しは一時中断し、過去2年間は山之内農村公園キャンプ場横の神子野グラウンドのみで開催。その後、地域の過疎化、高齢化等のため、川渡しの再開が危惧されてきました。

「川渡しを再開させるこの先40回、50回と続けていきたい」、そんな思いから、今年、山之内区長の山内英彦さんは「山之内こいのぼり実行委員会」を立ち上げました。山之内区単独開催だったこの活動に、北吉井三島有志など地域外の若い力を加え、3年ぶりに川渡しが実現しました。



こいのぼりのかけ渡しの手伝いは楽しかったし、こいのぼりを川にかけるととても綺麗でした。
 マドンナジュニア愛媛キャプテン
 岡田 未結さん



四国電力グループの多大なサポートと北吉井三島会による有志のほか、多くの人の協力により開催できました。皆さんへの感謝と、被災地へのエールを込めた39匹×3本を、除ケの堰堤と神子野グラウンドにかけ渡しました。
 山之内区長 山内 英彦さん

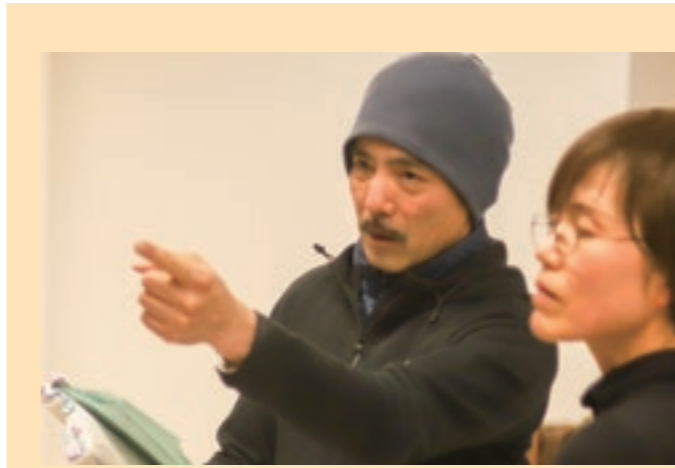


加わったのは、若い力。

山之内こいのぼり実行委員会は、山之内区自治会、井口公民館、山之内公民館、サロンすみれの会、元山彦会地区外メンバー、北吉井三島有志で構成。こいのぼり制作には、こども館や重信中学校美術部などが参加。川渡しには、山之内の神子野グラウンドで練習する野球チームマドンナジュニア愛媛も参加し、地域内外の子どもから大人まで交流を深めました。

～シェイクスピア作品でオンリーワンの表現を～

芝居漬けの人生、芝居の楽しさを東温市民にも知ってもらいたい



2月に上演した「夏の夜の夢」の稽古

斉藤 かおる さん

1969年生まれ。桐朋学園大学演劇専攻科卒業後、劇団「シェイクスピアシアター」に10年在籍。2021年東温市地域おこし協力隊に就任。とうおん舞台芸術アカデミー講師、シニア劇団「完熟一期座」講師、四国学院大学非常勤講師。

劇団「シェイクスピアシアター」に10年在籍した強みを活かして、市民を主役としたシェイクスピア作品を届けた斉藤さん。

演劇との出会いは、高校生のときに初めて見たお芝居。ドキドキするような胸の高まる思いをしたのがきっかけ。大学では、芝居のことだけ考えて過ごした。「人とのコミュニケーションが欠かせない演劇は、とてもいいと思います。セリフを覚えたり大きな声を出したりすることで、知らず知らずのうちに体も元気になります」と芝居の魅力を話す。

3年間の活動で印象に残ったことは、「大人のための朗読」、「東温でつくるシェイクスピア」、「市民演劇教室」の教室を行うことができたこと。これらの教室が、今後の活動に繋がると手応えを持つ。

地域おこし協力隊として舞台芸術の楽しさ、素晴らしさを発信いただきました。3年間ありがとうございました。



3年間の活動報告について語る斉藤かおるさん

4月24日、令和3年度から3年間の地域おこし協力隊としての任期を全うした、斉藤かおるさんの活動報告会が開催されました。斉藤さんは、アートヴィレッジとうおん構想担当として、東温アートヴィレッジセンターの管理運営やアートのまちおこしにチャレンジ。市民が中心の会話劇「伊予の国シェイクスピア」で「間違いの喜劇」と「夏の夜の夢」の作品を、予算の問題や本番直前に出演者がコロナに感染するなど数々の困難を乗り越え、上演を成功させました。今後について斉藤さんは、「東温市近隣地域で出張型の市民演劇教室を展開します。そして、伊予の国シェイクスピア作品のシリーズ化を続け、全国に誇れる企画にしたいです」と目標を話しました。

地域おこし協力隊
 活動報告会



太鼓の音と子どもたちの笑い声が響き渡る 北吉井三島会 第6回春祭り

春祭りが三島神社（樋口）で開催され、樋口獅子舞と北方獅子舞の演舞や、紙飛行機大会などが行われました。

会場には出店が並び、輪投げや射的を楽しむ子どもたちの姿も見られました。北吉井三島会（樋好会（樋口）、いずみ会（横河原）、中央会（志津川）、らくらく会（西岡）、山彦会（山之内）で構成）のメンバーは「三島会は、地域の活性化を目指して子どもたちの笑顔が見られるような活動やイベントをしている。ぜひ参加してほしい」と話しました。



仲間と励まし合いながら山登り 東温高校皿ヶ嶺登山

東温高校の全校生徒が皿ヶ嶺登山をしました。毎年恒例の登山は、上林皿ヶ嶺登山口から登り、皿ヶ嶺連峰県立自然公園の風穴を目指します。途中、傾斜がきつい山道も励まし合いながら、一步一步ゴールを目指しました。到着後は、仲間と楽しくお昼ご飯を食べて栄養補給。下山して、東温高校まで徒歩で帰りました。当日は、晴天に恵まれ、生徒の皆さんは、皿ヶ嶺の自然を満喫しました。



東温市生まれの宇宙食 県総合科学博物館で常設展示

市内企業である（株）キシモトの主力商品であるアジの干物をもとに開発した宇宙食「スペースまるととアジ 燻製しお味」が、愛媛県総合科学博物館3階にて常設で展示されることとなりました。展示では、科学的な視点からの紹介はもちろん、宇宙食を手掛けることになった「運命の出会い」についても説明していますので、ご注目ください。



子どもたちの声と笑顔が地域を元気に 東谷小学校のみんなで田植え

東谷小学校の全校児童24人が地域の人と田植えを行いました。地元の農家の浅野和雄^{かずお}さんは、「最近トラクターのエンジン音があまり聞こえてこなくなり、地域の農家人口が減っているのを感じて寂しく思っていたが、今日は子どもたちの元気な声を聞いて『頑張らないと』という気持ちになった」と意気込み、田植えを指導しました。

子どもたちは、裸足で田んぼに入って泥の感触を楽しみながら田植えを行い、地域の人たちと交流を深めました。



春のうららか散歩 市総合公園でとことこクラブ

小さな子どもたちのおさんぽ会「とことこクラブ」が総合公園で行われました。先生のお話に耳を傾けながら散歩し、てんとう虫やみかんの花などを見つけ、季節を感じる和やかな時間を過ごしました。最初は、捕まえた大きなとんぼに物怖じしていた子も、虫かごに入れてみると食い入るように近くで観察していました。

次回のとことこクラブは、7月10日開催です。



**当たり券付きもちまきで景品ゲット!
 春のほっちょ市を開催**

さくらの湯観光物産センターにて、ほっちょ市が開催されました。美味しいものやこだわりの商品の販売、いのとんのオマジナイ体操などのステージイベント、アイシングクッキー作りが体験できるワークショップなどが行われ、家族連れでにぎわいました。午後には、当日出店したお店の商品との引換券が当たる「当たり券付きもちまき」が行われ、参加者は夢中でもちを掴み取りました。



**普段と違う環境での戦い
 横河原水天宮春季大祭**

水天宮境内にて、奉納剣道大会（主催：水天宮総代会・横河原区）が行われ、小中学生剣士が参加しました。靴を履いて試合をすることが特徴で、1948年から始まり今回で70回目となります。奉納剣道大会事務局の渡部聡さんは、「コロナ禍以降、久しぶりの開催で子どもたちの元気な剣道が見られました。次の大会は、より多くの剣士の参加を期待しています」と話しました。



**チームの勝利を目指して
 スプリングカップサッカー大会**

総合公園にて、市内の「重信キッカーズ」、「東温川上サッカー少年団」、「トレフルFCaube」と市外の9チームが参加し、小学生のサッカー大会が行われました。選手たちは、チームの勝利のためにボールを追いかけ、ゴールを決めて仲間と喜んだり、順位決定のためのPK戦ではゴールを外して思わず涙する選手もいたり、会場は熱気に包まれました。



**東温市民ミュージカルの制作が決定!
 東温市誕生20周年記念事業**

4月25日に、東温市民ミュージカルの制作発表が、東温アートヴィレッジセンターにて行われました。7年ぶり2度目となる市民ミュージカルのタイトルは「重信川伝」（仮称）。東温市の中央を流れる一級河川「重信川（しげのぶがわ）」を題材とし、東温市の歴史などを加えながら物語が作られる予定です。今年、誕生20周年を迎える東温市では、記念事業としてさまざまな企画を予定しています。



**生まれてくる赤ちゃんのために
 パパママ教室で沐浴体験**

総合保健福祉センターにて、沐浴体験教室が行われました。教室には、赤ちゃんの誕生を心待ちにしているパパとママが参加し、保健師に質問し助言を受けながら、首の座っていない赤ちゃんをどのように支え、体を洗えばよいか人形を使って学びました。次回は、7月11日に、10月・11月出産予定日の人を対象に開催されます。